

認知症患者のためのグループホームデザイン

～認知症を和らげる、進行を遅らせる住まい～

A2201521 晴山 英依

研究の背景

近年高齢化社会によって、グループホームの需要が増えつつある。グループホームとは、少数の認知症の高齢者とスタッフで共同生活を営む住居である。グループホームは、認知症の入居者に適した空間でなくてはならない。しかし、グループホームの施設は、認知症高齢者が混乱してしまうデザインなど課題がある。このような空間で過ごすことにより、症状は進行してしまう指摘もある。認知症高齢者の問題行動には理由があり、認知しやすい空間デザインで問題行動を減らすことも考えられる。グループホームの設計をする上では、認知症の高齢者が、混乱せず、安心感を持てる空間を研究する必要があると考え、調査・研究を進めていく。

研究の目的

さまざまなデザインを含むグループホームを調査し、どのような空間、立地が認知症高齢者にとって過ごしやすいか調査・分析を行っていく。また、調査結果をもとに、認知症高齢者が過ごしやすく、症状を和らげ、進行を遅らせる空間がどのような空間か分析を行う。その上で、快適で症状を和らげるグループホームのデザイン提案を行う。

研究のプロセス

□ヒアリング調査

- ・グループホームしづく(北海道登別市)
- ・虹の家(福島県本宮)
- ・恵愛ホーム(宮城県多賀城)
- ・おばちゃんち(会津若松)
- ・グループホームこすもす(会津若松)
- ・東山しょうぶ苑(会津若松)

ヒアリングの結果(症状を和らげる可能性について)

- ・日差しがほしい
- ・換気のための窓が足りない
- ・収納がほしい
- ・職員の休憩スペースがない
- ・手すりが足りない
- ・冬場に向いていない
- など

↓

□文献調査

- ・徘徊はとめないほうがいい
- ・行き止まりは動揺を起こす
- など

↓

□分析・考察

↓

□デザイン提案



恵愛ホーム:ヒアリング風景



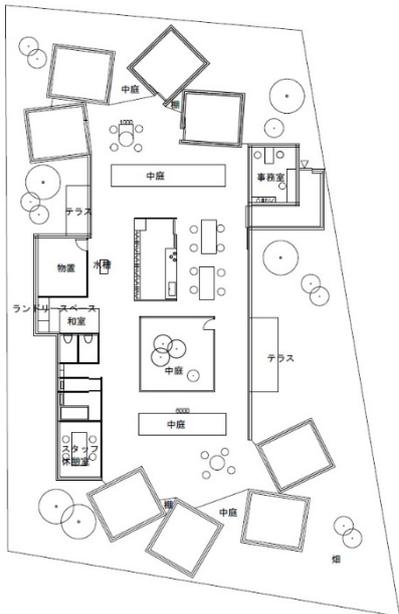
グループホームこすもす:廊下



グループホームしづく:玄関前

成果物(完成作品)

・論文 ・模型



平面図

取り入れた認知症を和らげる、遅らせるデザイン

- ・徘徊を抑制しない
- ・小さなコミュニティスペース
- ・日光を多く取り入れる etc

認知症の高齢者にとって過ごしやすいグループホームをデザインした。認知症を和らげる、遅らせるデザインとして、小さなコミュニティスペース、日光を取り入れる中庭等を取り入れた。

徘徊する行動に対するデザインは、徘徊を抑制しないデザインにした。徘徊をする入居者が、自分がどこにいるのかわからなくなってしまうよう、目印となるものを配置するようにした。

中庭をつくり、日光を多く採り入れた。認知症高齢者は、日光を多く浴びることで生活習慣を改善できるとされている。

居室の前に小さな集まるスペースをつくり、居住者同士のコミュニケーションをとりやすくした。居室には角度をつけ、入り口が向かい合わず、緩やかな空間を作り出すと意図した。

考察

多くのグループホームは「施設らしさ」が目立ち、認知症の高齢者が以前住んでいた住居とは大きく違っている。また、認知症特有の行動に適していない空間が多い。今回の研究で、認知症高齢者にふさわしいデザインのグループホームは少ないと感じた。徘徊行動の抑制、大きすぎるコミュニティスペースなど、改善したほうがよいデザインが見られた。この研究を通して、認知症患者にあったデザインのグループホームを広めていく必要があると感じた。



模型写真



模型写真



模型写真